

神戸 マルセイユ

JPUKB FRMRS

LEBENSWELT 生活世界

KEI SUGIYAMA / DRISS AROUSSI

KIITO:

23/33

kiito.jp

BEAU 462565

DA KS FS JF

フランス・マルセイユを拠点に活動するアーティスト

ブックと版画の芸術研究所であるアートリエ・ビザビの展覧会



23/33

BEAU 462565

DA KS FS JF

KOBE CITY of DESIGN

2023.

7.15 Sat. - 7.30 Sun.

11:00 - 19:00

神戸 マルセイユ JPUKB FRMRS LEBENSWELT 生活世界

2023年7月15日 [土] - 30日 [日]

11:00-19:00 休館日 | 7月18日 [火]、24日 [月] 入場無料
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) 2F ギャラリーC

主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸、Atelier Vis-à-Vis (アトリエ・ビザビ)
助成：Ville de Marseille, L'Institut Français
協力：文化人類デザイン研究室、Conseil Départemental des Bouches-du-Rhône、
Région Sud, Urban Gallery, Arches Papers,
PAC - Provence Art Contemporain, Studio Aza



デザイン・クリエイティブセンター神戸は、神戸市の姉妹都市であるフランス・マルセイユを拠点に活動するアトリエ・ビザビと協同し、展覧会「JPUKB FRMRS Lebenswelt 生活世界」を開催します。

この展覧会は、アーティストブックと版画の芸術研究所であるアトリエ・ビザビが神戸とマルセイユという二つの港町を横断的に捉えるところから始まりました。杉山圭が影響を受けたテーマ「生活世界」を元に、神戸を基点にした作品制作を杉山に、それに呼応するかたちでマルセイユの作品制作をドリス・アルーシに依頼し、2人の作家とアトリエ・ビザビが協同してリサーチ、クリエイション、プロダクションを行いました。無機質に感じられる港湾地区に広がる生活世界を、写真、シルクスクリーンプリント、アーティストブックで表現し、また神戸で実施する2人の作家によるフォトセッションのワーク・イン・プログレスを通して2つの国・地域・文化・港湾建築を西洋と東洋の視点から考察します。

「生活世界 共存するということ」

杉山圭が東京の築地市場で行った5年間のリサーチが原点にあるこのプロジェクトは、エドムント・フッサールの「生活世界」の考えが反映されています。

ノスタルジックに思えた世界最大規模の魚市場は、80年前は当時最先端の近代建築群であり、その立地的特性や人間性が絶妙に絡み合い、実に人間らしい“街”を創出していました。リサーチで築地市場に入り込む度に、その人間らしさへの変貌の欠片の数々を見た杉山圭。専門である都市計画デザインの側面からも、その欠片の無限とも思えるやり取りこそが、時代の変革期である今、必要である要素なのだを確信を得ました。人間と進化の融合に必要な生活世界とその欠片を神戸で見つける俯瞰的な序章と位置付けています。

都市景観や建築現場の世界をテーマに造形活動を行なっているドリス・アルーシは、暫定的に現れる物と、その一時的なバランスの儚さに興味を持ち、構築と無秩序、混沌と整然、パラドクサルな要素が共存する逆説的な場所である建築現場や場所を



捉え、詩的におさめます。港に存在する全ての要素がそこになくはならないものであり、無機質と思わせる工業地帯の中には、働く人の日常があり、太陽で褪せた色、船の下の木の破片、人の手で作られた道具、それらの要素が独自のルールで共存しているのです。それを儚い彫刻作品かのように切り取るドリス・アルーシ。杉山圭とはまったく違う視点で生活世界を表現しました。

「生活世界」、それは私たちが「生活しながら体験する世界」であり、あらゆる物事が重なり合いながら「相互性と干渉性の効果と共に (ピエール・マシュレ)」共存する世界でもあるのです。アトリエ・ビザビは2人の捉えた空間を、版画作品へと移行させるプロセスの中で、記憶とルポルタージュの狭間に見られたこのミクロな秩序が存在する世界を再度考究しつつ、ドリス・アルーシと杉山圭の撮った「生活世界」を一冊のアーティストブックと12点のシルクスクリーン作品に作り上げました。2人の作家の視点、写真と版画の出会い、そして、思想と技術の融合。作家たちが見た工業湾岸付近の「生活世界」を広く伝えたく、マルチプルアートという複数性の特徴を生かし共有していくことにより、境界の融解を試みたプロジェクト。本企画を通し、東洋と西洋の普遍的な空間・世界を感じる機会となれば幸いです。

「生活世界・Lebenswelt」

ドイツ出身の哲学者のヴィルヘルム・ディルタイが継承し、エドムント・フッサールが取り入れた表現です。フランス人の哲学者ピエール・マシュレは生活世界のある一面をこのように説明します。人間は個々のプロジェクトによって設定された限界の中で囲い込まれた隣同士ではなく、共通に存在し、行動する。この「生活世界」の意味はある一つの意識だけでなく、複数の意識に与えられ、この複数性に連動した相互性と干渉性の効果を持つことになる。



Driss Aroussi ドリス・アルーシ (造形作家)

1979年モロッコ生まれ。マルセイユを拠点に活動。2007年にフランス・エクサン・プロバンス高等芸術学校を首席で卒業しDNSEP修士号を取得。彼の芸術作品は多面的で、実験とドキュメンタリーの間を交差しながら制作。一方では労働者階級の人々の世界に疑問を投げかけ、他方では写真について実験的な考察を行っている。カサ・ベラスクスから研究助成を受け、パリのシテ・デ・ザールやバマコのアンスティチュ・フランセでレジデンスを行う。第59回サロン・ド・モンルージュ、ヨーロッパ・地中海若手作家ビエンナーレ、パノラマ・ドゥ・ブルージュ・ビエンナーレなどに参加。



関連企画

オープニングトーク 7月15日 [土] 15:00-17:00

本展覧会の企画者でもあり、アトリエ・ビザビの共同ディレクターを務める佐藤文香、ジュリ・フォルニエと作家が、それぞれの作品やプロジェクトの今後の展開について語ります。また、トーク終了後には交流会を兼ねたレセプションを開催します。

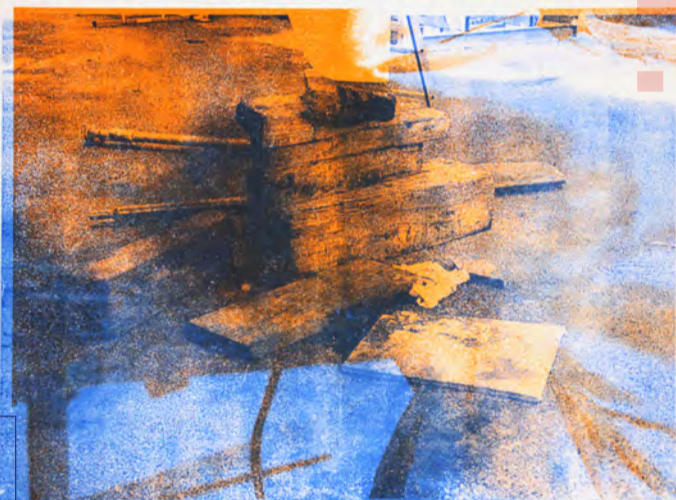
会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸 2F ライブラリ
出演：佐藤文香、ジュリ・フォルニエ (アトリエ・ビザビ共同ディレクター)
杉山圭 (クリエイティブディレクター、アートディレクター)
ドリス・アルーシ (造形作家)
参加：無料、逐次通訳あり / 30名 (事前申込制、先着順)

サイアナタイプワークショップ 7月16日 [日] 13:00-17:00

青写真とも呼ばれるサイアナタイプは、画像を制作または複製するために使用される写真プロセスのひとつで、色々なニュアンスの「青」で画像を制作することができます。紫外線にさらされた紙の上に短時間置かれた物体が残す痕跡を表現するシンプルで、かつ詩的なプロセスを学び、実験的なイメージと一緒に作り上げます。

会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸 3F プロジェクトスペース3B
講師：ドリス・アルーシ
参加：1,000円、通訳あり / 10歳以上 10名 (事前申込制、先着順)

申込はデザイン・クリエイティブセンター神戸 web サイト (<https://kiito.jp/>) にて6月29日 [木] 14:00 から受付開始



本展企画者

ATELIER VIS-À-VIS Édition d'art et livres d'artiste

1987年に南フランス、マルセイユに設立された Atelier Vis-à-Vis (アトリエ・ビザビ) は、ビジュアルアートとアーティストブックの研究室。マルチプルアートや版画、紙の分野に特化し、シルクスクリーン、活版印刷、版画プレス機が備わっている工房でアーティストレジデンス、制作、発信、継承を組み合わせた活動実施。多くの新進アーティストや著名なアーティストとコラボレーションし、アーティストブックやアートプリントなど、250点以上のオリジナル作品を制作。国内外のギャラリーや団体と協力した交流プロジェクトや展覧会も数多く企画。共同ディレクター：佐藤文香、ジュリ・フォルニエ

KIITO: DESIGN AND CREATIVE CENTER KOBE

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)
〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4
TEL 078-325-2235 MAIL event@kiito.jp
WEB <https://kiito.jp/>

○阪急・阪神線神戸三宮駅、JR三ノ宮駅より南へ徒歩20分 ○神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分 ○ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分 ○神戸市バス29系統三宮ターミナル前より乗車、税関前 (デザイン・クリエイティブセンター前) 下車 ○連節バス「Port Loop (ポートループ)」三宮駅前より乗車、KIITO 前下車 ※一時利用駐車場あり。満車の場合は、お近くのコインパーキングなどをご利用ください。

